

事例8 若手を中心としたパソコン導入による農業経営の合理化

平賀町 広船

協定内容

面積	田	畑	草地	協定参加者	
226ha	13ha	213ha	—	170人	
交付金総額 2,554万円	個人配分 (50%)		1,274万円		
	共同活動 (50%) 1,280万円	役員報酬	31万円	農道・水路管理	685万円
		共同利用機械購入		271万円	
		その他 (積立金、会議費、事務費、日当等)		293万円	

活発な地域活動

広船集落の対象農地は八甲田連峰に連なる丘陵地に広がるりんご園で、昭和59年には豊かなむらづくり全国表彰事業で内閣総理大臣賞を受賞するなど、地域活動が盛んなところです。平賀町の中では農業後継者が最も多く、若手を中心に獅子踊りの保存やねぷた祭りなどの活動が活発に行われています。

集落協定の体制

集落の大多数が協定に参加していることから、全生産者が加入している16の農道組合の組合長と10の共防の組合長を集落協定の役員にして、運営を行っています。協定規模も県内最大級となっています。

パソコン導入による合理化

平成12年度から交付金を活用して草刈り等の農道管理や、農道舗装の生コン費用、農道の除雪等に活用しています。

平成13年度には、若手からの要望により、各防除組合の経理等を一括管理するためにパソコンを12台購入し、パソコン研修会を開催しています。

この結果、若手を中心に経営記帳や税の青色申告、認定農業者となるための経営改善計画の作成などに取り組む者も出てきており、農業の経営改善に大きく役立っています。

今後も、りんごの町として生き残っていくために、交付金を活用して、腐乱病防除剤への助成や防除用水槽の改修などを進めていくことにしています。



パソコン研修会

協定代表者の声



工藤 和紀さん (60歳)

小学校が1つで集落のまとまりが良かったこともあって、35年前からむらづくり活動を行ってきました。広船集落には若い担い手が他集落に比べて多くいます。若い担い手に集落の役員などを積極的にやってもらうことで集落の活性化を進めていきたいと思っています。